

令和7年2月7日

貝塚市議会議長 殿

視 察 報 告 書

公明党議員団

堺谷 裕

日 時： 令和7年2月3日（月）
場 所： 日野市役所
研修所名： 街の賑わい、高幡不動、新選組について
講 師： 日野市議会議員 みねぎし弘行氏

日野市の主要なまつりイベント

ひの新選組まつり

「新選組に会えるまち、新選組が集うまち」日野市では土方歳三の命日に合わせて5月に新選組まつりが行われます。

初日は高幡不動尊にて、新選組パレードの隊長を決めるコンテストが行われ、全国から応募した隊士による熱いパフォーマンスが披露されます。

2日目は新選組隊士に扮した参加者が、日野宿地区にてパレードを行います。甲州街道に大手門や高張台を設置して江戸時代の日野宿を再現。隊士達が勝鬨を上げながら堂々と練り歩く姿は壮観です。地元小学生による「春日隊」や、市内中学生のブラスバンドなど、地元の皆さんもパレードに参加。お囃子やお神輿も甲州街道を盛り上げます。

ひのよさこい祭

平成13年に日野市商工夏まつりと同時開催で始まった「ひのよさこい祭」は、街の移り変わりとともに発展し、市内や関東近県から1,000名を超える踊り子が参加する日野の代表的なイベントとなりました。会場や日程など実施形態は年によって変わりますが、JR塩田駅前の通りを踊りながら練り歩く「流し」は技の見せ所。踊り子たちの心意気を感じることができます。

たかはたもみじ灯路

高幡不動駅前の商店街等に約3000個を超える灯ろうを並べ、照明の落とされた街並みに光の路を創り出します。岩手県宮古市発祥の切り絵の灯ろう「夢灯り」などが会場の各所を飾り、お茶会やコンサート、おもてなし屋台などの催し物も開催されます。

高幡不動尊の境内でも仏教行事「萬燈会」の萬燈や浮き燈明、色づいたもみじのライトアップなども行われています。

日野市産業祭

「日野市産業祭」は、日野市の産業を広く市民に紹介し、市内商工業の生産品・取扱品や農産物等を一同に集め展示即売することにより、地域住民との交流を深める市内最大の催しです。



所感

日野市出身の新選組副長の土方歳三の命日 5 月 11 日に合わせ、毎年開催している。

新選組隊士コンテストや巨大スタンプの迫力満点なスタンプラリーなど、市内各所でさまざまなイベントが行われており、なかでも隊士に扮した人々が勝鬨を上げながら歩く新選組隊士パレードには全国から多くの新選組ファンが参加されていることに驚きました。

また、よさこい踊りは、1000 名を越える踊り子さんが参加するイベントとなっており、色とりどりの踊り子が駅前通りを踊りながら練り歩く、よさこいの本場さながらの、流し踊り、が最大の見どころであり、地域住民の皆様が一体となった流し踊りが素晴らしい場だと感じました。

たかはたもみじ灯路は高幡不動尊への参道を中心に、街灯などの照明が暗く落とされ、路上に飾られる約 3000 個もの灯籠が、街を優しく照らし出しており、会場ではお茶会やミニコンサート、スタンプラリー、参加無料のモデル写真撮影会なども催されています。

日野市産業祭では、未来へ輝く日野の産業、をテーマに、これから先の未来を担うこども、若者に向けて日野市の産業をしっかりとアピールされており、市内の農業や工業と商業者が展示や販売を行い、その数は 100 ブースを超え屋内外のステージでは様々なイベントも催されています。地域住民の皆様の、強い結束力と、豊かな文化を、目の当たりにすることができ、大変感動しました。

今回の視察で得た学びを、貝塚市の活性化に繋げ、地域住民の皆様が、笑顔で暮らせるまちづくりを目指してまいります。

政府陳情報報告書

令和7年2月7日

貝塚市議会議長 食野 雅由 殿

公明党議員団 谷口 美保子
堺谷 裕

[陳情項目及び、担当省庁]

令和7年2月4日（火）11:00

国土交通省 古川 康 副大臣

「JR和泉橋本駅山側地区土地区画整理事業に関する要望」について

JR和泉橋本駅山側地区は、駅に隣接する約21haの市街化調整区域で、府道に面した農地が広がる田園地区であります。

昨今、農業従事者の高齢化や後継者不足を背景に「新たなまちづくり」に取り組みたいという地元の機運が高まり、鉄道駅に隣接し、幹線道路である府道に面した交通利便性の高い本地区の立地を活かしたまちづくりを進めるため、令和4年度に地区地権者で構成されるまちづくり協議会が発足されました。

その後、令和6年11月に和泉橋本駅山側地区土地区画整理準備組合を設立。また、一括業務代行予定者については、令和6年度中に決定する予定。

本準備組合では、現在、土地区画整理組合設立に向けて「土地利用計画」の作成などの準備を進めており、それに併せて、貝塚市においても令和8年度の市街化区域編入を目指しております。

そこで令和9年度からの本土地区画整理事業の本格実施の際には、交付金や補助金等の配分について、本事業への御高配を賜りますようお願いし、古川副大臣より快諾いただきました。

「南海貝塚駅周辺の整備に伴う南海本線の高架事業に関する要望」について

南海本線において泉佐野市以北の急行停車駅で唯一されていない「南海貝塚駅高架化」問題については、谷川とむ氏を通じて国土交通省でのヒアリングを何度か受けております。施行者については、都道府県、政令市、県庁所在都市、人口20万人以上の市、特別区でないと事業自体をすることができないもので、貝塚市においては事業自体を大阪府に依頼するしか取り組みの方法がありません。しかしながら、南海本線の高架化は市民ニーズがとて多いにもかかわらず、今回、貝塚市都市計画マスタープランから今まで掲げていた高架化を取り下げたことは、我々にとっては、理解に苦しむものであります。この「南海貝塚駅高架化」を取り下げた根拠について「高架化の実施主体が大阪府」であり主に3つの条件をクリアできないからだと言及しました。そこで以下の項目について、

特段の御支援・御協力を賜りますようお願いしました。

①市は費用対効果の問題で、いわゆるB/Cが1を超えないため、現実的ではないものを事業化の検討をする余地はないとの考えで、大阪府においては万博などで府負担金が必要となることがネックのように見受けられることから、本事業の本格実施の際には、交付金や補助金等の配分について、本事業への御高配を賜りますようお願い申し上げました。さらに谷川とむ氏より、B/Cのありかたについて政府としても再検討して必要な事業への優先的配分を検討していくべきと要望していただき、古川副大臣もB/Cだけで事業の可否となるかは決めにくい問題であり、今後本格実施の際には国として前向きに検討して補助金配分を考えたいと回答いただきました。

②高架化できる踏切自動車交通遮断量の基準は、50,000（台×時）以上の踏切が1つでも存在することですが、2024年1月に、国土交通省が公開した貝塚駅付近の踏切の蛸地蔵7号（感田神社前）では踏切自動車交通遮断量が、46,008（台×時）でした。ただし、この調査期間にラピートの運休（2020年4月～2023年10月）及び空港急行の8両編成の減少（2021年5月～2023年10月）がありましたが、現在は解消されており、踏切自動車交通遮断量が50,000（台×時）以上となる可能性があると考えます。貝塚市に対して現在の状況を調査依頼しましたが、実行される見込みがないため、可能であれば再調査していただきますようお願いしました。

こちらについては、2019年より5年間かけて国土交通省から委託して調査しており、今後、貝塚駅付近の踏切の蛸地蔵7号（感田神社前）では踏切自動車交通遮断量の調査は予定されておりません。そこで、谷川とむ氏より、組み入れてほしいと助言いただき古川副大臣が快諾されました。

また、今後の動きとしましては、市が管理する都市計画道路について、国は高架化を認めているが、大阪府が認めていないという問題があります。この問題については、市議会で見解を採択できれば、大阪府に提出することなどを考えていることを古川副大臣にご報告しました。

【所感】

地方都市の様々な問題はしっかりと各自治体が国へ問題定義していかないと痛感しました。

逆に私たち地方都市も国の動向に敏感にならなければいけないとも感じました。市長部局、担当課任せではなく、私たち議員が自ら市民の皆様からお聞きした生の声を届けていくことが私たち議員としての役目です。これからも政権与党の議員として諸省庁、国への声を届け続けたいとおみます。